

胃ポリープ

胃の粘膜上皮が局所的に隆起した病変を胃ポリープといいます。

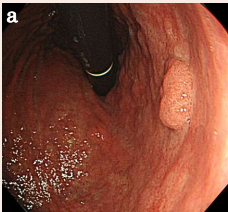
「胃ポリープ」の多くが「過形成性ポリープ」や「胃底腺ポリープ」という良性の疾患です。

しかし、将来がんになる可能性がある「腺腫性ポリープ」もあります。

したがって、胃ポリープを認めたときは多くの場合、組織検査を行い、将来“がん化”するポリープかどうかの判断を行います。

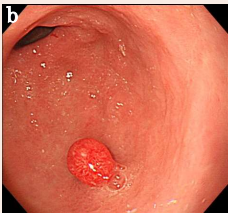
| 特徴 | |
|----------|--|
| 腺腫性ポリープ | がん化する可能性がある 小さなポリープの場合には、半年～1年に1回の検査で経過観察することが多い |
| 過形成性ポリープ | ピロリ菌に感染していることが多い 赤く表面がごつごつしている がん化することは稀 |
| 胃底腺ポリープ | 健康でピロリ菌に感染していない粘膜にできることが多い 数個から多数認めることが多く、つやがあり、表面はなめらか |

胃ポリープの実際



a. 腺腫性ポリープ

大きさや、形態、病理診断の結果によって、切除を行う場合がある



b. 過形成性ポリープ

小さなものは治療の必要はない
大きいものは切除をする場合がある
ピロリ菌の除菌で自然に消滅する場合もある

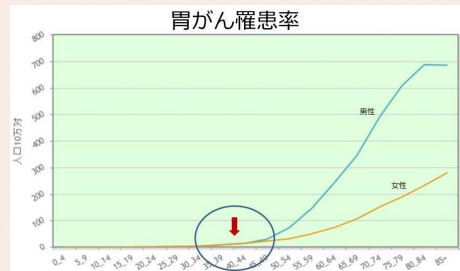


c. 胃底腺ポリープ

治療の必要性はない

胃ポリープの自覚症状はほとんどありません

40歳以上の方は定期的に胃内視鏡検査を受けましょう



40歳を境に胃がんにかかる率が増加していきます。定期的に胃内視鏡検査を受けることにより、早期発見が可能です。

院長からひとこと

胃ポリープは“がん化”することは少なく、そのほとんどが切除する必要がないポリープです。

検診でポリープ指摘された場合は、胃内視鏡検査を行い、ポリープの形態を確認しておくことが大切です。

